

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472200308		
法人名	医療法人福島会		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	三重県三重郡朝日町大字小向2064番地1		
自己評価作成日	R3年9月2日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2472200308-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和 3年 9月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が歯科であるため、口腔指導や定期的なメンテナンスに力を入れている。
また週に2~3回マッサージ師によるマッサージを受けることができる。
地域との交流を深めるため、機会があれば町の催しに参加させていただいたり、当ホームで行う行事に地域の方をお招きし、協力してもらったりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一階平屋建てのコンパクトな建物の周囲が庭になっている過ごしやすい環境の事業所である。併設して有料老人ホームもあるので色々と協力もできて安心である。「ゆっくり楽しく家族のように豊かな生活を送りたい全ての人にほほえみを」が理念であるが、それが実践されている事業所である。そのためには職員の努力と安全、安心が必須である。協力医や看護師がいるので緊急時にも対応できる心の余裕がある。職員のマナーも良く、話しやすい環境からお互いの協力もできている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆっくり楽しく家族のように豊かな生活を送りたいすべての人にほほえみをもという理念の実践につなげるために、自己評価を毎月行い確認している。	理念に基づいた行動を職員が出来るように管理者が気づいたことをカンファレンスやその場で指摘している。職員同士でも気が付いたことを話し合っている。特に口調について話し合われることが多い。職員はユニットごとの領域意識もなくお互いが交流しているので話し易く理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から、地域の行事に参加したり、来て頂くことで知人・友人以外にも地域の方々との交流を深めているが、コロナウイルスの影響により機会が減っていることが心配される。	近所付き合いは少ないが、祭りなど地域行事には参加している。コロナ禍や自治会長も変わり地域の情報や繋がりが減っているのが心配である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内のイベントに参加することにより、認知症の理解を地域の方々に伝える機会や相談に応じる機会が増えてきたが、同じくコロナウイルスの影響により機会が減っていることが心配される。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加が難しい家族が多く事前に聞き取りをして、会議にて議題とさせて頂いている。コロナウイルスが終息した際には参加人数を増やし、意見交換が出来るが良い。	保健福祉センターで2カ月に1回開催している。主に行政や包括支援センターからの参加で時々、家族の参加がある。以前は自治会長の参加もあったが、会長が替わってから参加がなく地域住民の情報がなくなるのが心配である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議はもとより、日頃から電話やメールにて相談させて頂き、協力関係が築けている。さらに関係を深め、町全体で認知症の理解を深めていける取り組みを行っていきたい。	朝日町保健福祉課から運営推進会議に参加してもらったり、色々なイベントを行政と相談する関係であったが、最近、担当者が変更になったので以前と同様に積極的に推進していける関係づくりをしている最中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会の内容をもとに、ケアカンファレンスの際に身体拘束について話し合っている。玄関やウッドデッキの施錠は時間限定ではあるが、開放する時間を設けている。	身体拘束委員会を中心に毎月1回、身体拘束について話し合いを行っており、記録もある。ドアと窓は通常施錠している。車椅子使用時や食事中、ベッド使用時に身体拘束にあたる行為はしていない。スピーチロックも話し合いが行われておりお互いが気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束禁止委員会の議論を踏まえ、毎月のケアカンファレンスにて職員が理解すべきことや取り組むべきことを考え、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講演会や参考資料で学ぶ機会をもち、ケアカンファレンスの時に、制度の理解や意識を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明を行い、理解していただいた上で、書類にサインをもらっている。契約後も家族から疑問があればその都度話を聞き、ご理解頂けるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、家族に面会時または電話で意見を聞くようにしている。また意見箱を設置したり、年度末にアンケートを行い、匿名でも相談や意見しやすいよう配慮し、ホームの運営改善に反映させている。	年度末に家族アンケートを実施している。コロナ禍の現在では電話やフェイスタイムなどを使用して、テレビ電話で家族と利用者が会話もできる工夫をしている。利用者があんパンを食べたいなど希望を叶えることもしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時、意見・提案を聞いて、共有すべき内容はケアカンファレンス時に話し合い、改善すべき点は改善している。代表者も、管理者から報告を受け改善すべき点は改善している。	月1回のカンファレンスで職員の意見が反映される場を提供している。日々の業務中でも気が付くことがあれば話し合いが行われている。風呂場の手摺りを付けることや、ドアの開閉が重くなっているなどの意見が運営にも反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を通して職場の現状を把握し、職場の環境等、改善できる点があれば改善するよう努めている。また、ホーム独自の人事評価表があり、前向きに取り組めるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の能力を把握し、また、講演会や研修の機会があれば、希望するなどの職員に対しても随時受けていくように進め、向上する機会を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所間会議を始めたことで、町内の同業者とも交流する機会ができた。法人内の他事業所とは定期的に勉強会や行事の手伝いを通じ、交流をもち、サービス向上のための話し合いの機会としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居における不安や混乱がないよう、本人のペースに合わせてゆっくり時間をかけ、本人の要望を傾聴し、徐々に信頼関係を築いていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の実情や要望等を十分に聞くことで、問題点の洗い出しや、不安解消につなげる努力をしている。また、入居直後の環境の変化による混乱がないよう家族といつでも相談しあえる体制を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から可能な限り話を聞き、ニーズを把握し、また、環境の変化による精神的不安や負担を軽減する努力をし、その時に必要としている支援を行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の性質や好みを尊重し、一緒に洗濯物たたみをしたり、食事作りや後片付けの手伝いをしてもらったりしている。家事を好まれない方は一緒に出かけたり、何か出来ることを探し、手伝って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話にて日頃の様子を伝えている。心身の変化が見られる時は連絡し、相談できる関係が築けている。また、ホームの行事等は事前にお知らせをして参加してもらい、本人と共に食事やレクリエーションを楽しんでもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の思いを理解し、馴染みの人や場所などの記憶を維持していただくため会話を持つ。関係を継続されている方には、友人の訪問や電話での近況報告など、気兼ねなく行えるようにしている。	家族との面会も中止しているため電話や手紙で馴染みの人と交流しており、楽しそうに会話している。コロナ禍のため外出して馴染みの店や場所に行くことは控えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士でテレビを見たり、歓談したりされている。日頃からユニット間での行き来もあり、外出行事や季節の行事・誕生日会や日々の体操などホーム全体での関わりも深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者や家族も、関係性は大切にしつつ、希望があれば関わりをもち、法人内の介護付有料老人ホームに転居された方に対しても、引き続き、本人・家族との関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や表情から、本人の思いや考えをくみ取るようにしており、被害妄想の強い人には妄想の原因を取り除くよう努め、本人の気持ちを受け止めるようにしている。外食の希望があれば他の入居者を誘い好きなお店に同行している。	コミュニケーションが取れる利用者が多いので、事務所まで入って来て会話の中で思いを伝えて来ることが多い。その思いは申し送りノートで職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から入居前の暮らしぶりを確認し、新聞を読む習慣がある方や遅くまで起きていた方など、馴染みのある暮らし方ができるよう配慮をし、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を引き継ぎの職員に申し送り、個人記録に記載し、全職員が確認できるようにしている。また、利用者の変化や気づきに関しては、申し送りノートに記載し、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で利用者の状態、または、利用者本人や家族との会話の中から思いを聞いて、現状に即した介護計画を作るようにしている。また、心身の変化、認知症状の進行等、変化が見られる時はケアカンファレンスで意見を出し合い、介護計画の見直しをしている。	2人の介護支援専門員と2人の看護師が配置されており、3カ月のモニタリングと6カ月の見直しを基本としている。変化があればその都度、協力医や看護師の意見を参考にして見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的に課題の見直しをして、現状に合ったケアプランにそって、ケアの提供や日々の様子の変化や気づきを、個人記録に記入することで情報を共有して実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の訪問が困難である入居者や入居者本人の精神状況、家族の家庭状況など個々のニーズに合わせて、必要と思われるサービスの提供に柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年よりコロナ禍の中で「秋祭り」「食事会」等の行事関係が全く実施されないこともあり、地域住民の方との関りが困難な1年であった。今後の状況が改善次第、入居者の方の日々の暮らしが楽しめるような地域資源を活用し支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に月二回の往診協力を受けており、個々の入居者に応じてかかりつけ医を定めている。入居者の体調不良の際は電話相談・訪問診療又は職員同行で受診している。	夜間往診も可能な在宅ケアのクリニック2か所と契約して、月2回の定期健診をしている。薬については薬局と提携しているので配達されるようになっている。歯の訪問診療は代表者がしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調不良や皮膚の状態等で気付いた事は、介護職から看護師に伝え、程度によってはホームで処置をし、必要であれば受診できるよう支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院で安心して治療を続けて頂けるよう、病院関係者との情報交換を密に行うと共に、来院し、本人の状態を確認している。出来るだけ早期に退院し、スムーズに受け入れが出来るよう病院関係者との関係づくりにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の際にも重度化した場合の対応や終末期のあり方については、確認しているが、ホームでの生活が困難になってきた場合は、主治医・家族とも何度も話し合い、事業所内の介護付有料老人ホームへの移動も含め今後の方針を共有しながら取り組んでいる。	重度化した場合について入居時にも確認しているが、その際には再度確認して利用者や家族の要望に沿う配慮をしている。看取りの指針も重要事項説明書に入れて、来訪者も見れるように玄関入口に置かれている。直近では3名の看取りをしている。グループホームで対応が難しい場合は、系列の有料老人ホームで対応することも可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備え、マニュアルが作成しており、どの職員でも対応しやすいよう心がけている。また、消防署に依頼して救急講習を受ける機会を定期的にもうけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回、同法人で火災や水害を想定し、同じ敷地内にある介護付有料老人ホームと合同で避難訓練を行っている。また、ハザードマップ作りや避難経路に関して運営推進会議の際に朝日町に相談するなどしている。	年に2回の火災避難訓練と、独自で1回の水害避難訓練をしている。火災時の手順書を作成している。	災害時における夜間時の職員だけでも対応できるような災害別緊急対応マニュアルの作成を期待する。作成時には職員全員参加による意見を参考にして、自分事として貰えるマニュアルを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方に対して、本人の意見や意思を最優先し、一人一人の人格を尊重して、プライバシーを損ねないような言葉かけや対応に努めている。	周りの利用者に気付かれぬように、トイレ誘導をしている。利用者へ名前を呼びかけ時もちろん付けなど無いように、さん付けを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では、すべての事に対してご本人の思いや希望を自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のペースを大切に、本人の希望を聞きながら本人の望む方向に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人一人に対してその人らしい身だしなみを支援・提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食事準備や片付けを進める事でコミュニケーションも取れ、それが入居者の精神安定にも繋がり、食事を楽しむことにも繋がっている。	メニューを作成した業者から食材が配達されて、職員が料理している。出来る利用者が食材を洗ったり、調理を手伝っている姿がある。年間の行事には独自の料理を職員が調理して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて食べる量や、栄養摂取量、水分確保の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の口腔状態に合わせて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄間隔を把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけて支援している。	布パンツが3名で、夜間のみオムツ使用が4名、夜間のトイレ誘導が必要な利用者もいる。日中のトイレ誘導は、職員が利用者の行動からトイレ誘導を行うケースが多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動の取り入れなどで個々に応じて便秘の予防に努めている。状況に応じて主治医の指示にて薬の処方で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一人一人の希望やタイミングに合わせて個々に沿った支援をしている。	週5日で10時からと14時から、かけ流しの浴槽に入浴できるようにしており、毎日、入っている利用者もいる。入浴剤は使用していない。浴室は広くないが窓から外気も取り入れることが出来、採光も良く明るい浴室である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちの良い睡眠が確保できるように、日中に運動を取り入れたり、昼間の覚醒時間を増やすなど、一人一人に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に応じて服薬支援を行い、症状の変化の確認に努めている。状況に応じて主治医の指示を仰ぎながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の生活歴や趣味に合わせて、嗜好品、楽しみ事の支援を行いながら、気分転換を図って行く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年よりコロナ禍の中で思うように外出出来ず、家族様との面会にも制限があり、入居者の方には希望通りの支援が出来ない1年であった。今後の状況が改善次第、入居者の方の希望を把握し、日々の暮らしが楽しめるような支援をしていきたい。	現在コロナ禍で面会や外出をしておらず、ユニット間の行き来や庭ぐらまでの散策となっている。コロナ禍でも室内レクリエーションを増やすなどして、利用者への支援の仕方を工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人に管理能力がない方に関しては、家族様の希望でホーム側が管理している方もみえるが、家族様が把握された本人の所持金は、ご本人が所持して外出時や買い物の際に自由に使えるようにしており、支払い時は職員が見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが希望すれば、家族や友人などに電話をしたり手紙のやりとりができるように職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節感を感じて頂けるよう、季節の花を飾ったり、壁飾り等でも季節感を感じていただけるようにしたりして、居心地よく過ごして頂けるように工夫している。	2ユニットの真ん中に事務所があり、各ユニットの中心に厨房設備が備えられており、厨房のカウンター前に2つテーブルがある。その周りを囲んで居室が配置されていて、コンパクトな作りであるが天井が高く、むき出しの木の梁と壁の周りからの間接照明がぬくもりと爽やかさを感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、ソファーや畳スペースなど思い思いに過ごせるように配置し、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、入居時にご家族と相談しながら、自宅で使い慣れた家具やご本人の好みの物を配置してりして本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	洗面台がある居室とない居室の2種類となっている。各居室にエアコン・ベッド・押入れが備えられて、引戸の扉は利用者が中から鍵をかけてプライバシーを保てる仕様となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室は分かりやすく表示している。トイレは、その人の使い勝手がいい所を使ってもらい、食堂の席は歩行器や杖歩行の人が動きやすい位置にしたり、気の合う人同士、隣り合うよう工夫している。		